韓国帰国の原爆被爆者支援を再開

― 令和５年度韓国被爆者支援に議長・広島代表・事務局長を派遣 ―

KAKKIN は 10 月 19 日（木）～21 日（土）、渡邊啓貴議長と本地康秀 KAKKIN 広島事務局長、岩附宏幸事務局長の３名を韓国に派遣し、韓国被爆者支援を３年ぶりに再開しました。

KAKKIN は昭和 45(1970)年から、日本で被爆し、韓国に帰国して治療・療養されている方々への支援活動を毎年行っていますが、2019 年度を最後に、新型コロナウイルスの感染拡大により３年間にわたり派遣を中止していました。今年度は感染状況が改善したことから、今回の訪問、支援再開となりました。

10 月 19 日にソウルの大韓赤十字社本部を訪問し、韓国に帰国した原爆被爆者の現状（1,790 名＝男性 696 名、女性 1,094 名、平均年齢 83.2 歳）を確認し、大韓赤十字社からは、KAKKIN に対し今までの支援に感謝し「赤十字会員有功名誉章」を贈呈されました。

翌 10 月 20 日は、韓国被爆者支援の中心である、陜川(ハプチョン)にある韓国原爆被害者福祉会館を訪問し、支援金をお渡ししました。そこでは、慰霊堂での礼拝、福祉会館の現状の確認（入所者 77 名＝男性 21 名、女性 56 名、平均年齢 83.5 歳）、日韓共同声明の合意、入館者(被爆者)の激励を行い、その後、2017 年に開設された原爆資料館を視察しました。

また、韓国の現状と今後の展望については、ジャーナリスト（産経新聞在ソウル客員論説委員）の黒田勝弘氏、NHK ソウル支局長の青木良行氏、同特派員の大谷暁氏、日中韓三国協力事務局事務次長の図師執二氏から、それぞれご教授いただきました。

＜ 訪問時の写真 ＞

ソウルの大韓赤十字社本部の前で左端：岩附事務局長、左から３人目：鄭（チョン）チーム長、左から４人目：渡邊議長、５人目：本地事務局長と事務局の皆さんと

鄭（チョン）チーム長から「赤十字会員有功名誉章」を贈呈される

陜川の福祉会館にある慰霊堂での献花

福祉会館の張（チャン）館長と渡邊議長が日韓共同声明に署名

陜川の福祉会館の皆さんとの意見交換